

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	シュウエール新松戸 第1教室			
○保護者評価実施期間	令和7年4月1日 ～ 令和7年4月15日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	37	(回答者数)	23
○従業者評価実施期間	令和7年4月1日 ～ 令和7年4月15日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数)	5
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年6月25日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	多種多様な集団活動を準備している	5領域を基に子どもたちの苦手なことや得意なことを織り交ぜながら、活動の準備を行なっている。また、月に数回SSTを取り入れ、対人関係スキルの学習を行なっている。	感覚統合や作業療法的観点をさらに追加することや、職員の提供スキルの向上を図り職員研修等を行なっていく。
2	教材研究を行い、個人にあった教材を提供している。また、土曜日は集団授業を行っている。	職員で個々の学習内容を共有し、個々にあった教材を可視化し、提供している。集団授業では、社会や理科等生活に纏わる事柄を取り入れている。	集団授業を平日にも取り組んでいけるようになる。
3	専門職（作業療法士）がいる。	集団活動や遊びの中で、個々に必要なスキルを職員へ共有をし、職員全員が意識してもらい療育の提供している。	全職員へ朝礼で発信をしているものの、個々のスキルに違いがあるため、一貫した療育の提供ではないため、職員研修を行なっていく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	場所が2階である。	外階段を利用しなければ事業所に入れないため、バリアフリーではないか。	階段昇降時には必ず職員を配置し、転倒・転落防止を図る。
2	部屋が狭い。	学習支援があり、机と椅子を配置している環境であることもあり、環境を調整しても身体を動かすにはやや部屋が狭く、運動の制限が出て来ってしまう。	身体を動かす活動では、公共施設（すまいる等）や公園等で行うことも実施する。
3	職員の経験の未熟さ	福祉・療育の経験のない職員が多く、臨機応変に対応することやパニックになった際等の対応ができる職員が偏ってしまう。	社内研修を定期的に行い、療育や対応方法を学ぶ。また、社外研修の案内を随時し、自己研鑽できるような環境を作っていく。